

答辞

早春の光を浴び、草花も鳥も、春の訪れを迎えているような今日の良き日に、このように盛大ですばらしい卒業式を開いてくださった先生方をはじめ、在校生のみなさん、その他すべての関係者の皆様に、卒業生一同、心よりお礼申し上げます。この度、無事に卒業できることを嬉しく思います。

3年間の高校生活はとてもあっという間でした。振り返る度に、数々の思い出がよみがえります。みんなの一番の思い出は何ですか？

3年前、真新しい制服に身を包み、期待と不安で胸を膨らませながらこの玉名高校の門をくぐりました。入学式を迎えるにあたって、緊張していたのを覚えています。

入学式が終わると、すぐに体育祭の結団式が行われ、体育祭に向けて練習が始まりました。最初は先輩方についていくのが精一杯で、応援団リーダーの叱咤激励を受けながら、必死に練習に臨みましました。そして迎えた本番では、これまでの練習の成果を発揮することができ、終わった後は、なにものにも代え難い達成感でいっぱい

でした。それと同時に、2年後は私たちがつくりあげていくんだという決意も生まれました。

若駒祭では、各クラスの個性溢れた劇やダンス、食品バザーなどで賑わいました。本番に向けての準備はとても大変でした。しかし、1人1人が協力し合い、時には助けあいながら、クラスが徐々に団結し、絆が深まっていくのが感じられ、素晴らしい作品が出来あがりました。

そして12月に小岱山1周大会が行われ、1月には3泊4日の修学旅行に行きました。初日と2日目は山梨県でスキー研修を行いました。初めてのスキーで不安でいっぱいだった人も多かったのではないのでしょうか。しかし、インストラクターのみなさんが私たちに楽しく、分かりやすく教えてくださったおかげで、そのような不安は無くなりました。時間が経つにつれ、上達していくのが分かり、柔らかい雪の上で滑るスキーがとても楽しかったのを覚えています。3日目は、東京都での班別の自主行動。見慣れない景色に啞然としながらも、時間制限ギリギリまで東京の街を散策しました。

しかし、修学旅行から帰ってきてまもなく、思いもよらない事態になりました。新型コロナウイルスがこの時期から全国的に拡大

し、臨時休校を余儀なくされたのです。まだまだこのクラスで過ごしたいと思っていた矢先でした。先の見えない未来に不安でいっぱいになりました。

2年生になり、しばらくの間、分散登校を強いられ、当たり前前の生活がどれだけありがたかったかを身に染みて感じるようになりました。慣れないリモート授業や感染対策をした上での学校生活は不自由なことが多く、学校行事も延期や縮小、中止を強いられ、思うような学校生活を送れない時期を過ごしました。

そんな中、12月には芸術鑑賞に行くことができました。劇団四季によるマンマミーアはとても印象的で、「本物は違う!」「もう1度見たい!」と思えるような素晴らしい作品を鑑賞することができました。

1月に入り、5月の体育祭に向けての準備が始まりました。「光焔道～雲間から差す希望の光～」というテーマのもと、応援団のスタッフ・リーダー、そして生徒会を中心に怒濤の時間を過ごしました。彼らの体育祭に対する情熱や、堂々とした姿を生徒会長という立場で間近で目に焼き付けることができた経験は貴重なものとなりました。しかし、多くの制限がある中での準備は困難な事ばかりで

した。前例通りにはいかず、一から作り上げていく新しい形での体育祭に戸惑いを隠せませんでした。それでも、どんな困難が待ち受けようとも、創意工夫をして協力し合って乗り越えていきました。全員で時間をかけて体育祭成功という1つの目標に向けて取り組んだからこそ後悔は何一つありません。そんな中、先生方が「あとは楽しめ」と言わんばかりの演舞披露会とダンス披露会の場を設けてくださいました。新型コロナウイルスの感染拡大が収束を見ない中での開催は、周囲から様々な声もあったことでしょう。その中で、先生方が私たちの及びもつかないところで、ご尽力して下さったおかげで会を開催することができました。生徒会執行部、応援団リーダー、3年生、1、2年生それぞれに様々な想いがあったと思います。それぞれの、言葉で表しきれない思いを噛みしめ、想いのこもった私たちのパフォーマンスが在校生にとって心に残るものとなったのでしょうか？決して1人ではできなかつたことを仲間と協力しあったからこそ、あのような素晴らしい披露会にする事ができたと感じています。

私たちの学年はコロナ禍の中でも、修学旅行、芸術鑑賞、体育祭などと、多くの事を経験できた学年でした。そのような私たちの営

みを見守って下さってきた3年生の先生方は私たちのことを「奇跡の学年」とおっしゃいました。しかし、私たちが色々なことを「奇跡的に」経験でき、成長できたのは校長先生をはじめとする多くの先生方の存在があったからこそだと思います。私自身は、3年間、本当にたくさんの貴重な経験をさせてもらいました。本当に感謝でしかありません。授業でもそうでしたが、わからなかったところなども優しく教えてくださいました。3年生になり、本格的に進路を決め始めるようになったとき、先生方は親身になって真剣に考えてくださり、的確なアドバイスもしていただきました。時には、進路のことで悩んだ時も、何時間も相談に乗ってくださり、安心できたことを覚えています。また、入試に向けての面接練習や小論文指導などを夜遅くまで丁寧にしていただき、全力でサポートをしてくださいました。自分でも少しずつ進歩している感覚がとても嬉しかったです。また、先生方と真面目な話や時には他愛もない話をしているときも本当に楽しかったです。それらだけでなく、部活動や生活面でも大変お世話になりました。先生方は私たちにとって自慢の先生方です。本当に感謝しています。3年間ありがとうございました。

在校生のみなさん。先ほどは、素晴らしい送辞をありがとうございました。高校生活は本当にあっという間です。1日1日をどうか大事に、そして後悔の無いように過ごしてください。このコロナ禍において高い壁にぶつかることもあるでしょうけど、決して諦めず、乗り越えて行ってください。生徒会執行部や委員会活動、部活動などで、みなさんと一緒に活動出来たことに感謝でいっぱいです。みなさんが玉高生としてのさらなる活躍に心から期待しています。

そして、一緒に卒業するみんなへ。いよいよ卒業の日がやってきましたね。入学当初は知らない人ばかりで、不安でいっぱいでしたが、だんだんいろんな人と出会って、たくさん話して、多くの友達ができました。3年生になり、たんと勉強に明け暮れた毎日がだんだん辛くなってきて、もうやめたいなんて思ったことも多々ありました。それでも、学校に来ると、みんなの頑張っている姿が目映り、自分も頑張ろうって思えた日もたくさんありました。クラスメイト同士で励まし合いながら乗り越えた1年間。そのなかで得たものは必ず人生のどこかで役に立つときが来るはずです。まずは、頑張った自分をたくさん褒めてあげてください。部活動でも、

高校総体・総文・選手権に向けて練習に励んだ時間は貴重なものでした。お互いに2年半切磋琢磨できて、とても楽しかったです。みんなと出会えてよかった。また、どこかで会えることを楽しみにしています。3年間本当にありがとう。

最後に、家族へ。お父さん、お母さん、家族のみんな。18年間育ててくれてありがとうございます。小さかった私たちがこうして今卒業を迎えられているのは、お父さん、お母さん、家族のおかげです。毎日、お弁当を作ってくれてありがとう。部活の試合では毎回送迎してくれてありがとう。辛いときも苦しいときも、いつもそばにいてくれて、味方でいてくれて、励ましてくれてありがとうございます。「験担ぎのお菓子の詰め合わせ」ありがとうございます。一人一人に向けた手書きのメッセージ嬉しかったです。ことある毎に「人生の応援団長」としてたくさん応援してくれましたね。いつだったのでしょうか、進路のことで意見が合わなくて喧嘩した日もありましたね。たくさん迷惑かけちゃって、たくさん困らせちゃってごめんなさい。いつまでも私たちはお父さん、お母さんの子供です。これからもっともっといろいろな経験をして、いろいろなことを学ん

で、もっと大きい大人になって、いつか必ず恩返しをします。それまでもう少し、お世話になります。温かく見守っててください。

とうとう今日卒業式を迎えましたが、私にはまだ実感が湧かず、明日もまだいつもの高校生活が続くような気がしています。学校に来れば、友達や先生方と何気ないことを話し、笑い合うクラスメイトがいる。そんな当たり前の日々が無くなってしまおうと思うと、とても寂しいです。3年間を振り返ってみると、たくさんの出会いと別れを経験してきました。苦しい時期が続いて学校に行きたくない日だってありました。何もしたくないときだってありました。投げ出したいときだってありました。でも、3年間笑顔で過ごせたのは、側で支えてくれたみんなの存在があったからです。どれだけみんなの存在に救われたことか計り知れません。私は決して一人ではありませんでした。私の周りには必ず助けてくれる仲間がいました。だからこれからもどうか一人で抱え込まないでください。一人でも多くの方が幸せな人生を歩めますように。

これから私たちは感謝の思いを胸にそれぞれの夢へと向かって歩み出し、新たな世界へと羽ばたきます。玉名高校で培った若駒の精神を胸に、向上心を持って、さらなる飛躍をすることを誓います。

最後になりますが、校長先生をはじめ、多くの先生方、保護者の皆様、在校生のみなさん、その他すべてのみなさんのおかげで今があります。3年間本当にありがとうございました。玉名高校の今後のますますのご発展とご活躍を祈念し、答辞とさせていただきます。

令和4年 3月1日

卒業生総代 奥田葵羽